

携帯版マニュアルの院内研修における活用に関する研究

研究分担者 滝沢 牧子 埼玉医科大学総合医療センター 教授

研究要旨

特定機能病院は高度の医療を提供するとともに、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研修を実施する能力等を備えた病院として承認されている。特定機能病院の多くは大学附属病院であり、将来の医療を担う医療人の育成を担っており、毎年多くの新社会人を受け入れているという背景もある。また、医師をはじめとする医療職はキャリア形成のために複数の医療機関との間でローテーションをするなど途中入職者も多い。このような人的流動性の高い組織において、入職時や復職時をはじめ、職員に対する医療安全の教育は、基本的な項目についても繰り返し実施されていることが想定される。

多くの特定機能病院において、医療安全に係るマニュアルの携帯版マニュアル（ポケットマニュアル）が作成されているが、院内研修等でどのように活用されているか、その具体的方法について明らかにするため、特定機能病院の医療安全管理者へアンケート調査を行った。調査によって、ポケットマニュアルは特に、新入職者に対する研修や、その他の医療安全の基本事項を確認する機会でも活用されていることが示唆された。

A. 研究目的

特定機能病院におけるポケットマニュアルの院内研修等への利活用の実践例を収集し、どのような対象者にどのように用いられているかを明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

分担研究者の所属施設のほか、ポケットマニュアルを提供した特定機能病院のなかから、さらなる研究協力を得られた施設の医療安全管理者に対して、ヒヤリング及び質問紙による調査を実施し、過去2年分の研修におけるポケットマニュアルの利用方法や研修内容について調査を行った。

得られた結果について、今回研究において明らかにされたポケットマニュアルのカテゴリーにあてはめて集計し、具体的活用方法について検討した。

調査項目

- ① 研修の種類および対象者：新入職（新社会人）研修、新入職（新社会人以外、途中入職等の新規雇用者対象）研修、復職者（一定期間以上の休職後の復職者）研修、医療安全必須研修（全職員対象）、医薬品安全研修（医薬品安全管理責任者が主催するもの）
- ② 研修の項目・内容：研修で取り上げている内容についての自由記載
- ③ ポケットマニュアルとの紐づけの有無と方法：研修資料へのポケットマニュアルの該当ページの記載、研修にポケットマニュアルを持参して確認など
- ④ その他、工夫している点等の自由記載

C. 研究結果

回答数：国立、私立の大学附属病院および国立センター病院である特定機能病院13病院からの回答を得た。

① 研修の種類

新入職者に対する研修においてポケットマニュアルや本体のマニュアルを参照先として示していると回答した病院が多く（n=12）、特に医療安全上の基本的な事項を参照する研修において用いられている様子が明らかになった。また、特徴的な研修としては、研修医、看護師、事務職員など職種ごとに特に習得が求められる医療安全上の項目を中心に研修を行い、参照先としてポケットマニュアルを活用している病院もあった。また、医薬品や医療機器の研修時に用いていると回答した病院もあった。

一方、全職員に対する医療安全研修においては、施設ごとに必要な内容を研修項目としており、ポケットマニュアルの活用の度合いは多様であった。

② ポケットマニュアルの研修における具体的な活用方法

病院の医療安全に係る基本的な事項を、研修において病院職員に対して教育することは重要である。ポケットマニュアル（あるいは本体の医療安全のマニュアル）に記載されている内容や記載箇所を研修で示すことで、研修終了後も医療安全上の基本的なルールの参照先を理解することにつながる。特に新入職者にとっては、これから勤務する病院の具体的な医療安全対策を入職時から知っておくことは重要であり、入職時の研修として必要な教育が実施されていると考えられるが、マニユア

ルを参照先として活用している事例として、以下のような具体的な活用方法があった。

- ・新入職者に対する入職時の研修時に配布し、その場で確認しながら研修を実施する。
- ・新入職者への研修用の資料にマニュアルページ等を記載して紐づけ、参照できるようにする。
- ・途中入職者、復職者に就業前にマニュアルを郵送し、事前学習を求める。
- ・医療機器の研修、医薬品の研修の際に持参して用いる。

③ ポケットマニュアルと紐づけて研修等で取り上げられている項目の具体例

医療安全に係る研修等で取り上げられている内容のうち、ポケットマニュアルと紐づけて教育されている具体的項目について下記に示す。本調査は限られた医療機関の限られた期間における研修で取り上げられている内容である点に注意が必要である。

<特に多く取り上げられていた項目>(13 病院中 7, 8 病院)

- ・インシデント報告制度
- ・急変時の対応 (RRS、コードブルーなど院内の仕組み)
- ・医療機器の安全な使用に関する事項
- ・ハイリスク薬 (インスリン、カリウム製剤等) 使用時の注意点

<多く取り上げられていた項目>(13 病院中 4-6 病院)

- ・誤認防止のための手順 (患者確認方法)
- ・薬剤投与時の確認方法 (6R など)
- ・医療安全管理指針・基本理念
- ・血管外漏出
- ・医療事故調査制度
- ・インフォームドコンセント、患者の権利擁護
- ・ハラスメント防止、内部通報制度

<その他の項目>

- ・チーム医療におけるコミュニケーション
- ・アナフィラキシーへの対応
- ・感染管理、針刺し等の対応
- ・放射線検査、病理検査の結果確認
- ・接遇、SNS、職業倫理
- ・暴言暴力、無断離棟等への対応
- ・中心静脈ラインの管理

- ・術前休薬期間と再開
- ・静脈路確保等における注意点

④ その他、活用や周知の工夫

院内の医療安全の推進のためには、医療安全に係る研修の機会以外にも、基本の医療安全対策に関するルールの周知や教育を繰り返し行っていく必要があり、多くの病院で継続的な活動が行われている。院内共有のルールブックとして定められた医療安全のマニュアルは、定期的な見直しや改訂が行われているが、ポケットマニュアルとして携帯性を高めて、常に参照できる形で配布するとともに、研修やその他の機会を用いてその利活用を進めようとする取り組みが行われている。マニュアルの記載事項については、様々な院内周知の機会を活用して、その内容の確認と活用を呼び掛けるとともに、医療安全ラウンドなどを通して院内で働くフロントラインの職員に対しても周知と意見交換を行っている病院がある。また、マニュアル等へのアクセスをよりよくするために、院内のネットワークやデジタルデバイスを用いた活用が行われている施設もあり、今後このような活用が進んでいくことが想定される。以下に調査への回答内容を記載する。

<院内での周知に関する例>

- ・全部署の医療安全担当者が参加する毎月のクオリティマネージャー会議で、報告内容に併せて、ポケットマニュアルに記載がある事項については、参照先を明示して周知している。
- ・事例分析の際に、事例に応じた掲載ページを確認しながら進める。
- ・周知と認知度の確認を兼ねて、各部署へ訪問して行われる医療安全ラウンドで質問とフィードバックを行う。
- ・院内の部署間・診療科間でマニュアルの認知度、実施度の確認のための院内相互チェックを行い、その結果を踏まえて認知度の低い項目は院内に向けて再周知を行っている。

<マニュアルのアクセスを容易にするための取り組み例>

- ・ポケットマニュアルを携帯するだけでなく、本体マニュアルは院内サーバーに掲載し、病棟と外来には紙媒体も配布するなど、いつでも確認できるような取り組み。
- ・院内スマホでポータルサイトのアプリからマニュアルがリンクされており、参照が容易になった。

D. 考察

特定機能病院においては、高度の医療の提供を行いながら、同時に次世代を担う医療人の育成を行っており、職員の入れ替え周期も短いという状

況がある。特に新入職者や再入職者に対しては、入職時の研修等において病院の医療安全上の基本事項を教育しているが、医療安全ポケットマニュアルと紐づけたり、実際に参照させたりして教育に活用している病院があった。これは、病院の医療安全のルールを守ることをその根拠と共に示すことにつながり、各医療職が疑問点などを必要時に参照する習慣を身に着けることを促す取り組みと考えられる。

基本的な医療安全対策の項目は、ルールを作成しても、現場の医療職一人一人がそれを知って実施しなければ患者の安全が守られないため、たゆまぬ取り組みが続けられているが、今回の調査結果もそれを裏付けるものと考えられた。

E. 結論

特定機能病院の医療安全管理者への調査により、ポケットマニュアルが院内の研修その他の機会でも活用されていることが明らかになった。特に、新入職者に対する研修をはじめ、繰り返しの周知・教育を行う際に、参照されており、基本事項が記載されていることが想定された。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし

参考資料) アンケート調査用紙

各位

アンケート調査へのご協力をお願い

- 特定機能病院の特徴として、医療者の育成機関であるとともに職員の入れ替わりが激しいことがあげられ、入職時や復職時をはじめ、職員に対する基本的な医療安全の教育は繰り返し実施されていることが想定されます。
- ポケットマニュアル(マニュアル本体も可)が、院内研修等において活用されている場合には、どのような研修でどのように用いられているか調査を行いたいと思います。

貴院におけるポケットマニュアルの院内研修等での利活用についてご回答をお願いいたします。

対象：研究班員および研究協力者の所属する医療機関(特定機能病院)で実施された**過去2年分の院内研修**。

Q1. ポケットマニュアル(あるいは本体のマニュアル)を研修等で活用していますか

活用していない→以下回答不要です。ご協力ありがとうございます。

活用している→以下の表にご回答ください。(行は適宜ご追加ください)

研修の種類	項目・内容	ポケットマニュアルとの紐づけ(資料への頁数記載、持参して確認など)「有・無」を記載。本体マニュアルの場合は「本体」と追記ください。
新入職 (新社会人)研修		
新入職 (新人以外の入職者、途中入職者等の新規雇用者を対象)研修		
復職者研修(一定期間以上の休職後の復職等)		
医療安全必須研修 (全職員対象)		
医薬品安全管理研修 (医薬品安全管理責任者が主催するもの)		
その他の研修等		

その他：

- ・マニュアルの記載内容を周知していくための他の活動等
- ・コメント・追記等